

## Ⅱ【学生】「大学生基礎力レポート調査」結果報告

### 結果まとめ

くらしき作陽大学および作陽音楽短期大学（以下、本学）の平成 28 年度入学生を対象に平成 28 年に行った「基礎力調査（大学生基礎力レポート）Ⅰ」と、平成 29 年に行った「基礎力調査（同）Ⅱ」（「株式会社 ベネッセ i-キャリア」実施）における「(1)協調的問題解決力の能力的評価」「(2)協調的問題解決力の行動的評価」「(3)学びへの取り組み」「(4)学びへの意識」「(5)進路に対する意識・行動」という 5 項目についての調査結果を以下に述べる（その他については「全体結果報告書」参照）。

「(1)協調的問題解決力の能力的評価」については、平成 28 年の「基礎力調査Ⅰ」と平成 29 年の「基礎力調査Ⅱ」の経年比較から、「議論の明確化」等の能力に関して、本学学生の正答率が上昇していることが明らかになった。しかし、全国平均と比べると 5 ポイント以上低い。一方、全学的に下降気味なのが「推論」に関する正答率である。ところが、本学の正答率（24.8%）は全国平均（24.5%）をやや上回っている。

「(2)協調的問題解決力の行動的評価」については、協調的問題解決力に基づく「自己管理」等の行動の達成率に関しては、部局間に大きな差異はなかったし、著しい経年変化もみられなかった。なお、本学学生の「自己管理」等の行動に関する達成率は全国平均を上回っている。

「(3)学びへの取り組み」については、本学学生の達成率は、「予習や復習はしたうえで授業に臨む」等の 10 の評価基準のすべてに関して全国平均を上回っていた。ただし、その達成率は、平成 28 年から平成 29 年までの間に著しく変動した。10 の評価基準のどれに関しても、いずれかの部局の達成率が 10 ポイント以上上昇、または下降した。

「(4)学びへの意識」については、本学学生の「学びへのコミット」等の 5 項目に関する達成率は、いずれも全国平均を上回っていた。ところが、それらは、経年比較すると、ほぼすべての項目に関して下降していた。

「(5)進路に対する意識・行動」については、本学学生の「進路実現に向けた行動」等の 4 項目に関する達成率は、いずれにおいても全国平均を上回っていた。しかし、経年比較すると、短大を除く 3 学部の達成率は、おおむね下降している。

本学全体としては、正答率や達成率が学年進行に伴って下降しているケースが多くみられる。これは、学びへの意識や行動力が最も高いのが入学時であり、それらが時間の経過とともに低下していることを示唆している。入学後の、学びへの意識・行動の向上に向けた対策が必要である。

### 1. 調査の概要

- ・調査対象：平成 28 年度入学生
- ・調査時期：基礎力調査Ⅰ 大学・短大 平成 28 年 4 月 7 日  
基礎力調査Ⅱ 大学 平成 29 年 3 月 27 日、短大 平成 29 年 9 月 4 日
- ・受検者数：基礎力調査Ⅰ 大学 320 名 短大 56 名  
基礎力調査Ⅱ 大学 271 名 短大 40 名

### 2. 調査結果

#### (1) 協調的問題解決力の能力的評価について(表 1、図 1)

協調的問題解決力のうちの「議論の明確化」「推論の土台の検討」「推論」という 3 能力をそれぞれ評価する 3 基準に関する部局ごとの正答率を表 1 に、部局内での各基準に関する正答率を図 1（1～4）に示した。

表1 協調的問題解決力の能力的評価

平成28(2016)年度入学生		議論の明確化	推論の土台の検討	推論
音楽学部	基礎力調査Ⅱ	40.1	48.8	22.6
	基礎力調査Ⅰ	37.9	38.1	22.4
食文化学部	基礎力調査Ⅱ	43.3	44.2	25.3
	基礎力調査Ⅰ	42.5	39.6	26.0
子ども教育学部	基礎力調査Ⅱ	44.4	48.0	24.1
	基礎力調査Ⅰ	41.7	43.9	25.7
短期大学	基礎力調査Ⅱ	35.6	33.7	16.7
	基礎力調査Ⅰ	35.9	33.0	22.0

図1-1 音楽学部\_I\_批判的思考力

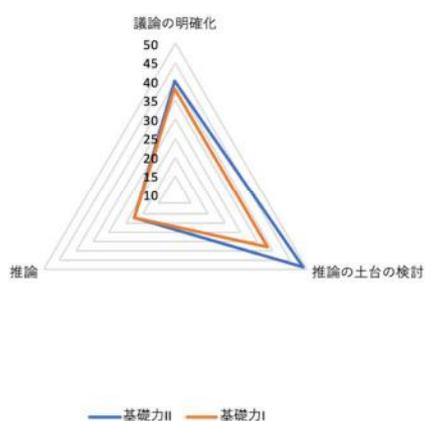


図1-2 食文化学部\_I\_批判的思考力

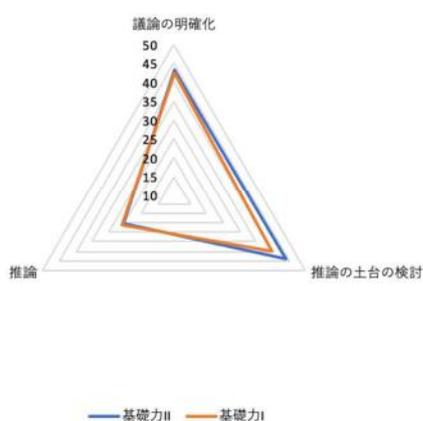


図1-3 子ども教育学部\_I\_批判的思考力

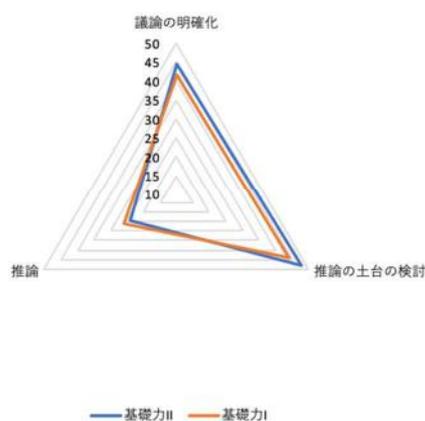
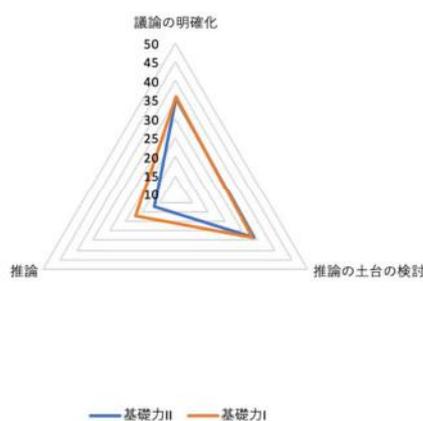


図1-4 短期大学\_I\_批判的思考力



平成28年の「基礎力調査Ⅰ」と平成29年の「基礎力調査Ⅱ」を用いて経年比較すると、「議論の明確化」と「推論の土台の検討」という能力に関しては、学内のほぼ全部局の学生の正答率が上昇していることがわかる。特に音楽学部学生の「推論の土台の検討」に関する正答率は10ポイント以上上昇して48.8%に達している。しかし、「推論」に関しては、音楽学部以外の学生の正答率はやや下降した。

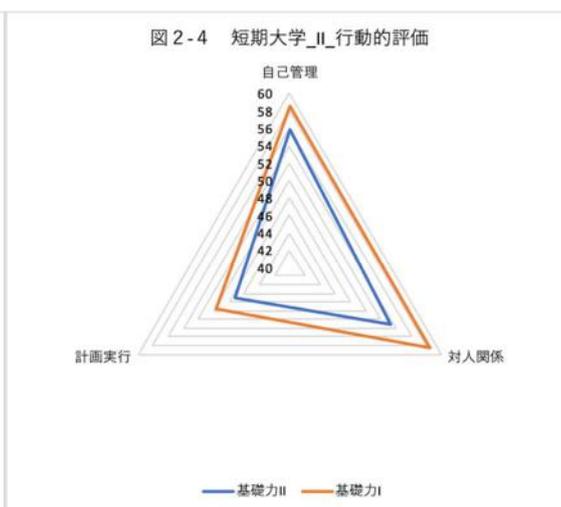
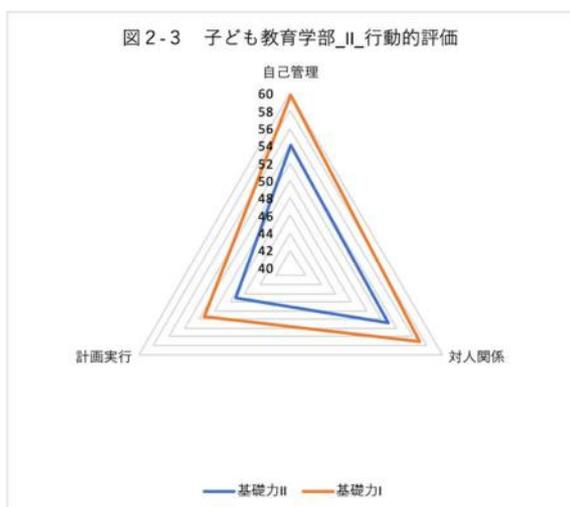
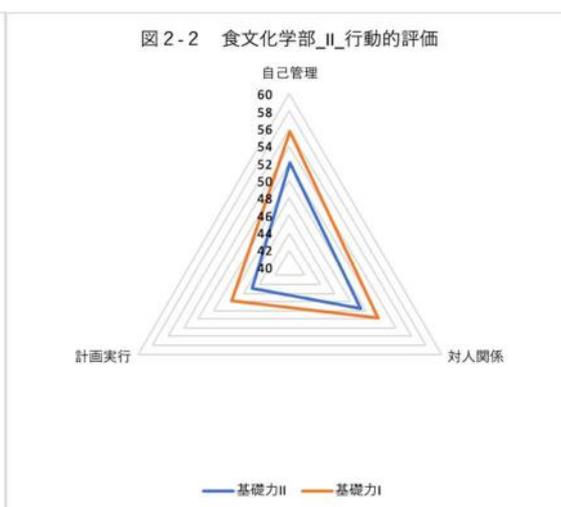
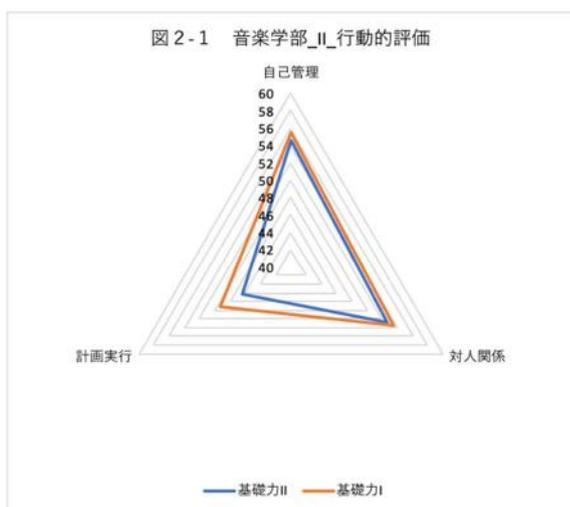
「基礎力調査Ⅰ」により全国平均と比較すると、本学の「推論」正答率(24.8%)はその全国平均(24.5%)をやや上回っていることがわかる。だが、「議論の明確化」と「推論の土台の検討」に関する本学の正答率はそれぞれ40.6%と40.0%であり、全国平均の48.8%と46.4%という正答率と比べると改善の余地がある。

(2) 協調的問題解決力の行動的評価について(表2、図2)

協調的問題解決力に基づく「自己管理」「対人関係」「計画実行」という3行動をそれぞれ評価する3基準に関する部局ごとの達成率を表2に、部局内での各基準に関する達成率を図2(1~4)に示した。

表2 協調的問題解決力の行動的評価

平成28(2016)年度入学生		自己管理	対人関係	計画実行
音楽学部	基礎力調査Ⅱ	54.5	52.7	46.3
	基礎力調査Ⅰ	55.4	53.6	49.2
食文化学部	基礎力調査Ⅱ	52.0	49.4	45.0
	基礎力調査Ⅰ	55.7	51.7	47.6
子ども教育学部	基礎力調査Ⅱ	54.1	52.9	47.2
	基礎力調査Ⅰ	59.8	57.1	51.3
短期大学	基礎力調査Ⅱ	55.8	53.3	47.1
	基礎力調査Ⅰ	58.5	58.5	49.6



本学学生の協調的問題解決力に基づく行動の達成率に関しては、部局間に大きな差異はなかった。また、著しい経年変化もみられなかった。「基礎力調査Ⅰ」により全国平均と比較すると、本学学生の「自己管理」「対人関係」「計画実行」の3行動に関する57.6%、54.9%および49.5%という達成率は、全国平均の54.5%、53.3%および49.1%という達成率をそれぞれ上回っていることがわかる。

### (3) 学びへの取り組みについて(表3、図3)

学びへの取り組みについては、「必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む」「授業中、グループワークやディスカッションに積極的に参加する」「板書や投影資料以外でも大事なことはノートにとる」「授業の内容でわからないことは先生に質問や相談に行く」「疑問に思ったことやわからないことはすぐに調べる」「自分なりの意見や視点をもって学習する」「必要な情報を図書館で調べる」「授業で興味を持ったことについて自主的に学習する」「授業と関わりのないことでも、興味を持ったことについて自主的に学習する」「自分なりに計画や目標を立てて学習する」という10項目に関する部局ごとの達成率を表3に、部局内での各項目に関する達成率を図3(1~4)に示した。

表3 学びへの取り組み

平成28(2016)年度入学生		必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む	授業中、グループワークやディスカッションに積極的に参加する	板書や投影資料以外でも大事なことはノートにとる	授業の内容でわからないことは先生に質問や相談に行く	疑問に思ったことやわからないことはすぐに調べる
音楽学部	基礎力調査Ⅱ	67.9	64.3	89.3	78.6	92.9
	基礎力調査Ⅰ	56.3	75.0	83.3	66.7	81.3
食文化学部	基礎力調査Ⅱ	47.5	66.7	91.7	43.3	73.3
	基礎力調査Ⅰ	65.6	68.7	83.2	70.2	77.9
子ども教育学部	基礎力調査Ⅱ	64.2	80.5	89.4	50.4	73.2
	基礎力調査Ⅰ	74.1	78.4	87.1	74.1	80.6
短期大学	基礎力調査Ⅱ	62.5	85.0	97.5	70.0	80.0
	基礎力調査Ⅰ	59.3	72.2	83.3	75.9	70.4

平成28(2016)年度入学生		自分なりの意見や視点をもって学習する	必要な情報を図書館で調べる	授業で興味を持ったことについて自主的に学習する	授業と関わりのないことでも、興味を持ったことについて自主的に学習する	自分なりに計画や目標を立てて学習する
音楽学部	基礎力調査Ⅱ	89.3	64.3	92.9	85.7	53.6
	基礎力調査Ⅰ	79.2	31.3	75.0	75.0	70.8
食文化学部	基礎力調査Ⅱ	68.3	24.2	42.5	45.8	64.2
	基礎力調査Ⅰ	67.9	26.7	52.7	53.4	69.5
子ども教育学部	基礎力調査Ⅱ	85.4	30.9	48.8	48.8	66.7
	基礎力調査Ⅰ	80.6	28.1	59.0	56.8	74.8
短期大学	基礎力調査Ⅱ	90.0	60.0	67.5	67.5	80.0
	基礎力調査Ⅰ	75.9	18.5	61.1	50.0	70.4

図3-1 音楽学部\_A\_学びへの取り組み

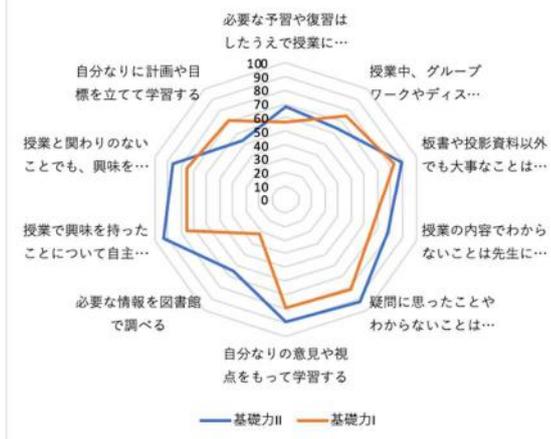
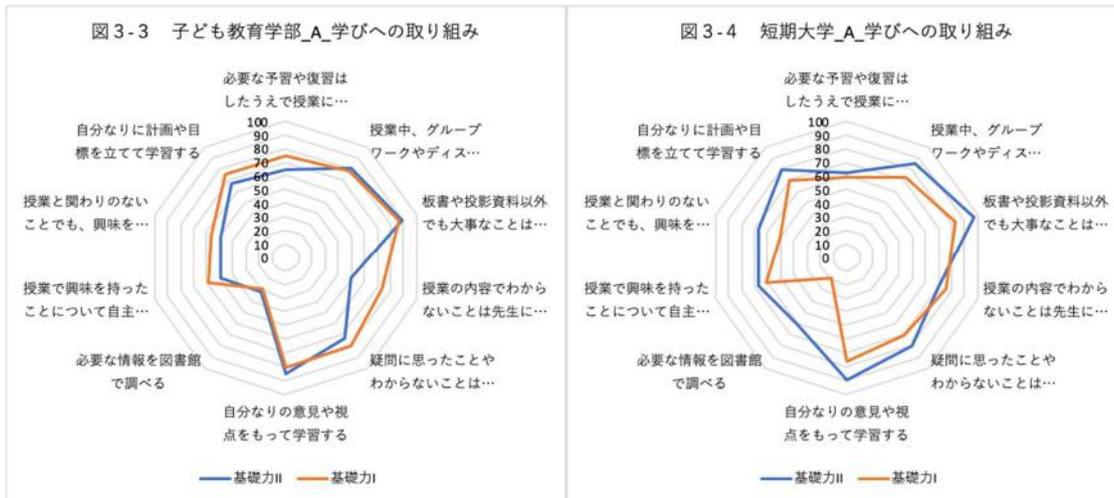


図3-2 食文化学部\_A\_学びへの取り組み





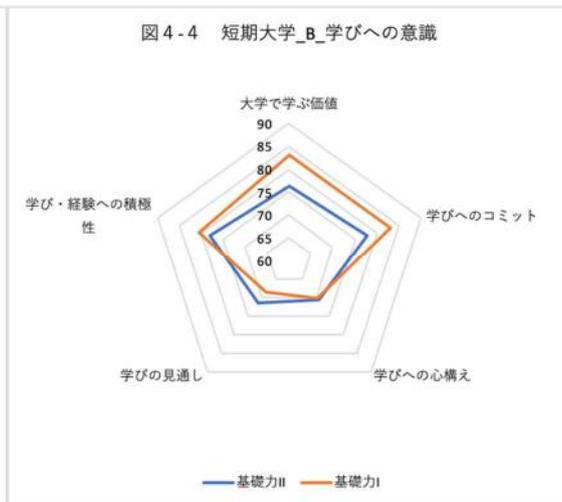
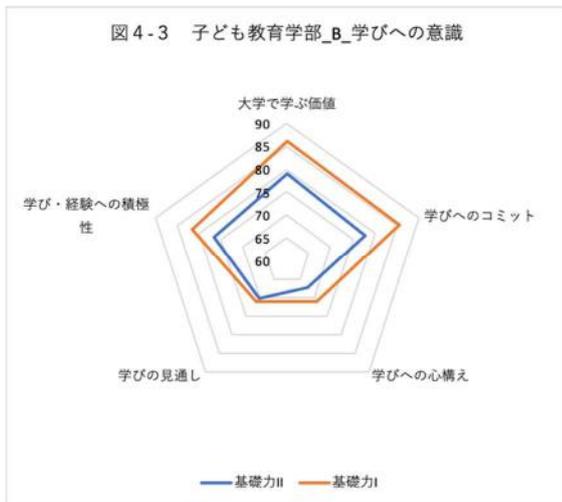
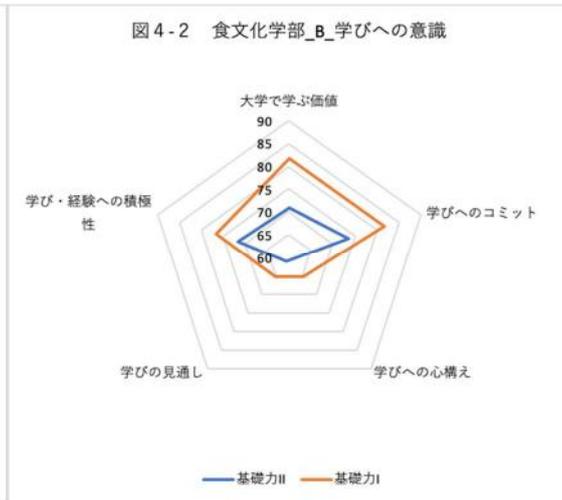
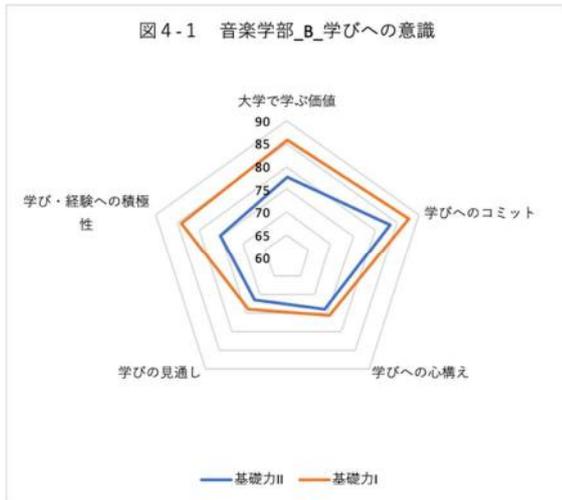
本学学生の達成率は、平成 28 年から平成 29 年までの経年変化において差異がみられる。上記の 10 項目のすべてに関して、いずれかの部局の達成率が 10 ポイント以上上昇、または下降している。それらの原因は明らかにする必要がある。「基礎力調査 I」により全国平均と比較すると、本学学生の達成率は上記 10 項目のすべてに関して全国平均を上回っていることが明らかである。

(4) 学びへの意識について(表 4、図 4)

学びへの意識については、「大学で学ぶ価値」「学びへのコミット」「学びへの心構え」「学びの見通し」「学び・経験への積極性」という 5 項目に関する学部ごとの達成率を表 4 に、部局内での各項目に関する達成率を図 4 (1~4) に示した。

表 4 学びへの意識

平成28(2016)年度入学生		大学で学ぶ価値	学びへのコミット	学びへの心構え	学びの見通し	学び・経験への積極性
音楽学部	基礎力調査II	77.7	83.6	74.1	71.7	75.3
	基礎力調査I	85.9	87.7	75.5	74.0	84.0
食文化学部	基礎力調査II	70.8	73.5	60.6	61.2	71.7
	基礎力調査I	81.7	81.7	65.4	65.2	76.6
子ども教育学部	基礎力調査II	78.9	77.7	67.5	70.3	76.7
	基礎力調査I	86.0	85.5	70.9	71.3	81.7
短期大学	基礎力調査II	76.2	77.7	70.8	71.6	77.9
	基礎力調査I	83.2	83.0	70.2	68.7	80.4



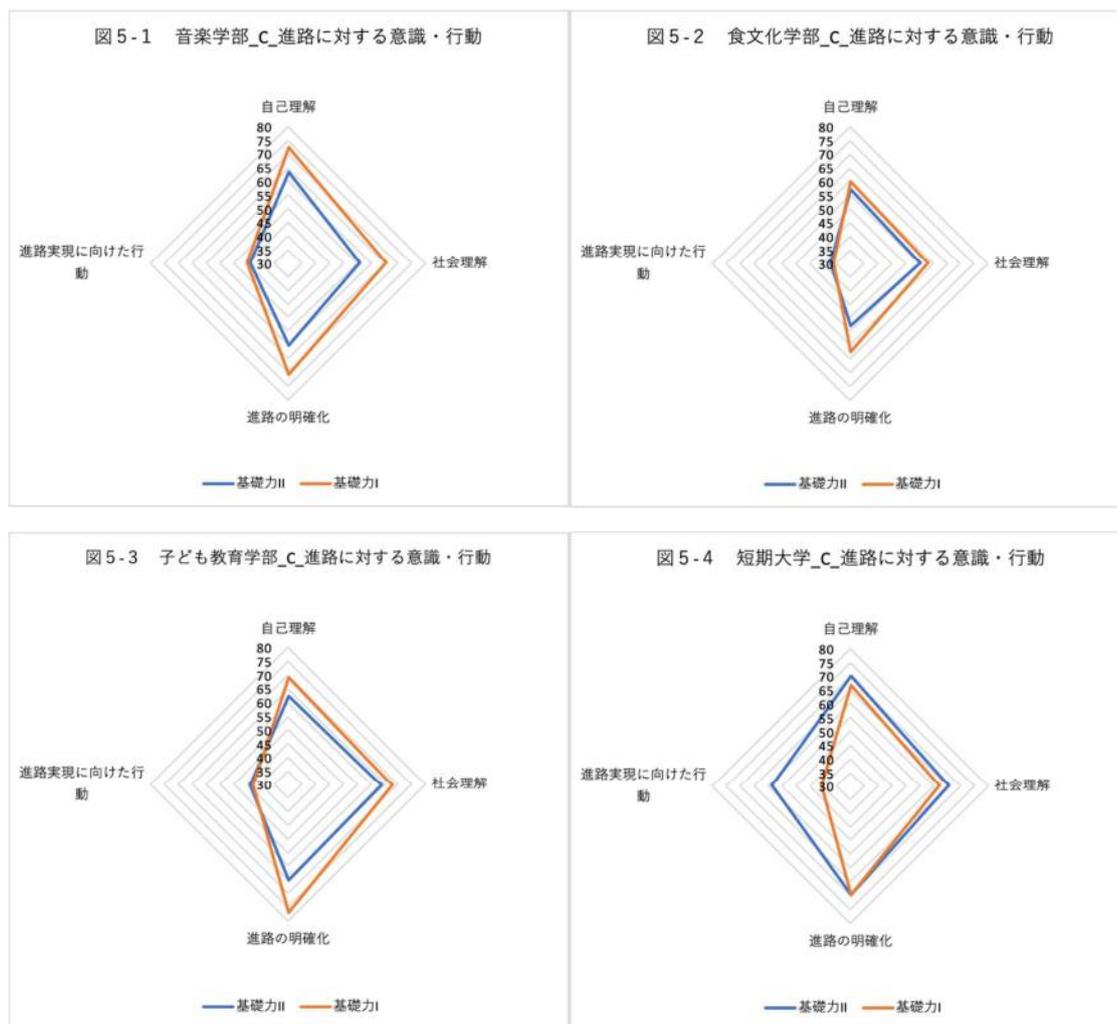
本学学生の達成率は、経年比較すると、ほぼすべての項目に関して下降している。また、「基礎力調査Ⅱ」に基づいて部局間で比較すると、いずれの項目においても食文化学部学生の達成率が低い。特に「学びの見通し」に関しては、他部局学生の達成率よりも10ポイント近く低い。以上の2点に関しては留意する必要がある。一方、「基礎力調査Ⅰ」により全国平均と比較すると、本学学生の達成率は上記5項目のいずれに関しても全国平均を上回っていることが明らかである。

(5) 進路に対する意識・行動について(表5、図5-1～4)

進路に対する意識・行動については、「自己理解」「社会理解」「進路の明確化」「進路実現に向けた行動」という4項目に関する部局ごとの達成率を表5に、部局内での各項目に関する達成率を図5(1～4)に示した。

表5 進路に対する意識・行動

平成28(2016)年度入学生		自己理解	社会理解	進路の明確化	進路実現に向けた行動
音楽学部	基礎力調査Ⅱ	63.1	56.2	60.0	43.8
	基礎力調査Ⅰ	72.6	65.5	70.6	45.3
食文化学部	基礎力調査Ⅱ	56.9	55.4	52.9	37.3
	基礎力調査Ⅰ	60.1	58.1	62.3	35.8
子ども教育学部	基礎力調査Ⅱ	62.4	64.0	65.0	43.8
	基礎力調査Ⅰ	69.0	67.8	77.0	42.5
短期大学	基礎力調査Ⅱ	70.0	65.8	69.7	58.3
	基礎力調査Ⅰ	66.5	62.4	69.7	40.4



学内では、3学部学生の達成率は、経年比較すると、「自己理解」「社会理解」「進路の明確化」に関しては下降していることがわかる。特に食文化学部と子ども教育学部の学生の達成率は「進路の明確化」に関して10ポイント前後下降している。ところが、短大学生の達成率は、ほぼ全項目に関して上昇しており、特に「進路実現に向けた行動」に関しては20ポイント近く上昇している。これは、調査対象の短大2年生がすでに就職活動に取り組んでいたことの現れであろう。

本学学生の進路に対する意識・行動についての達成率を「基礎力調査Ⅰ」により全国平均と比較すると、4項目のいずれにおいても全国平均を上回っていた。それは、本学学生の実学志向の強さや、本学の進路指導重視の指導体制の反映であろう。

以上